

『マコはハルモニア・ムンディにのって踊る』(2)

ロクスひよりやま キャプテン 中井 淳 SJ
(旧下関労働教育センター イエズス会神父)



中学生の時に、父親の書棚から手に取った小説を読んで以来、ヘルマン・ヘッセの抒情詩的作品は、マコの感受性を育ててくれた。特に『ペーター・カーメンツィント』は大切な小説だ。大自然の中で幼少期を育った主人公のペーターは特に信心深い者ではなかったが、自然と対話する特別な霊性を有した聖フランシスコに憧れ続けていた。そんな聖フランシスコへの思いからウンブリア地方に旅に出る。「聖フランチェスコの道を行くときには、聖人と並んで歩いているような気になり、小鳥や泉やイヌバラの茂みにまで感謝と喜びの気持ちを込めて挨拶し、心の奥底から湧いてくる愛情を実感した。」このような節を読んで以来、マコも、いつかその場所に行ってみたいと思うようになっていた。

その夢が実現したのである。マコが通っていた教会の日曜学校のリーダーをしていた“さやかさん”がフランシスコ会系の女子修道会に入り、数年ほど前にアッシジに派遣されていた。さやかさんは、マコが小学生の時から気にかけてくれて、折々に送ってくれる手紙を通して、アッシジを訪ねに来ないかと誘ってくれていた。「行ってきたらいいじゃないか」。マコが居候をしながら手伝っている西の街の平和とエコロジーの家を管理する“耕ちゃん”こと瀬川耕太神父も背中を押してくれ、マコはついにアッシジを訪ねたのである。

「ここでフランシスコの太陽の讃歌は生まれたのよ」。さやかさんが連れて行ってくれたのは、アッシジの街の南側の門を出て丘を下っていったところにあるダミアノ教会。兄弟である太陽、姉妹である月よ、と被造物たちを自らの兄弟として語りかけ、歌う被造物たちの賛歌は、フランシスコが自らの死を意識した晩年に生まれてきた祈りだ。それからちょうど800年が経つ時に、アッシジを訪れることができたことのはなんとという幸運だろう。その聖堂で祈っている時にちょうど始まった聖体礼拝式にあずかりながら、フランシスコの霊性に近づけますようにとマコは祈ったのだった。

そして、まだ朝5時にならない明け方、さやかさんの修道院を出て、アッシジの丘をさらに頂を目指して上がっていく。Via de Croce という道を辿っていくと頂にあるロッカ・マジオーレという古城の跡に出る。そこから昇ってくる太陽を見たいと思った。連なる山の間が少しずつ明るくなっていく。最近読んだ、エロワ・ルクレールというフランシスコ会士が書いた『アッシジに昇る太陽』という本がマコの心を魅了した。特に最後の章の「軽やかな心」という部分が大好きだ。自然

の中にあって自分の小ささを知りながら、被造物への畏敬の念を抱き続けたフランシスコ。そのフランシスコが兄弟として讃えた太陽はアッシジからどのように見えたのだろうか。

少しずつ雲間を縫って太陽が顔を覗かせる。その温かな光を感じて、心にも温かな光が注がれているような感覚がする。フランシスコは晩年は目が見えなかったのだと聞いた。だからこそ、フランシスコは目で見る人から耳で聴く人へと変わっていったのではないか。アッシジの街中に響く鳥のさえずりの大合唱は、創造主である神の偉大さを讃えて歌う讃美歌だ。すでに直視することを拒むまでに輝くその太陽の光をうっすら開いた目で眺めながらマコはその美しさを心に刻み続けていた。「これでよい」とこの世界を創り、眺めながら語りかけた神の声が、今自分にも注がれているように感じた。



★カトリック広島教区 ハラスメント相談窓口 ★ 広島教区人権擁護デスク
受付時間 木曜日(祝日を除く) 9:00~16:00 電話番号 082-555-1127

メール: desk-hiroshima@catholic.hiroshima.jp

発行 カトリック広島教区 平和の使徒推進本部 正義と平和推進デスク

TEL: 082-221-6613 FAX: 082-221-6019 E-Mail info@social-desk.net